

神戸市シルバーカレッジ情報紙 2023 年 3 月 第 215 号



「しあわせの村」 絵画ボランティアグループ 国際 27 期 前田 龍夫

目次

02～10	グループ学習発表会 (生環、園芸、美工、音文)
11	教室だより
12～13	卒業にあたって
14～15	サークルだより
16	ジョイラックデイ
17	グループわ だより、ジョイフルクッキング
18	文芸サロン
19	掲示板、事務局だより、図書室だより、編集後記
20	Photo News (グループ学習発表会、ジョイラックデイ)

情報誌編集委員会では、カレッジ内外の活動も含めて写真・記事の投稿をお待ちしています。
「爽風」への情報提供・ご意見は、次のホームページからお寄せください。

<https://ksc-sofu.net/> スマホからは右の QR コードを読み取ってアクセスできます。



特集！

令和4年度 グループ学習発表会（Part2） 生活環境コース、園芸専攻、美術・工芸専攻、音楽文化専攻

令和4年度のグループ学習発表会の後半部分は、1月27日の生活環境コース(8グループ)からスタートしました。2月3日に園芸専攻(4グループ)、2月15日美術・工芸専攻(5グループ)、3月1日は音楽文化専攻(3グループ)が相次いで開催されました。各グループから寄せられた学習の取り組み、成果、苦労話、反省点などをご紹介します。

◇生活環境コース◇

生活環境コース27期のグループ学習発表会は、1月27日カレッジホールにおいて開催されました。

8グループが入学当初、コロナ禍の影響で学生生活のスタートが半年遅れとなったことの影響など微塵も感じさせない充実した内容を力強く発表され、地球環境問題に結びつく切実な問題を真剣にとらえて提言される姿には感銘を受けました。

六甲山の自然をカーボンニュートラルという目でみた分析、「食品ロスなんかしてる場合ちゃうで！」と食品ロス35%削減の提言、瀬戸内海漁業の問題からみた環境問題の分析、そして脱プラ問題、住宅の省エネ、外来生物の問題など、これからグループ学習に臨もうとする私たちにも、いろいろ示唆をいただきました。

各グループ18分という持ち時間をどのグループもびったり有効に生かされていたこと、これも驚きでした。パワーポイントや動画の活用、コント(寸劇)など効果的な発表手法の工夫はもとより、いかに練習を重ねられたかが伝わってきました。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

(生環28期 佐野 幸男、関 信夫)

「都市山六甲山」をより良く未来へ引き継ぐ

With Rokko 佐野 廣和

六甲山を学習テーマとして考える時、防災、森林、景観、観光、交通手段など漠然と提案されるものの、さて課題選定となると迷走しました。

メンバーには六甲登山の常連者や、久しく六甲山に行っていない者もあり、まずは現状把握、材料収集しようと第1回目のフィールドワークは全員参加での開始でした。その後は登山経験者のメンバーたちは何度となく山に行き、写真を撮り、ヤブに入り道に迷うことで、一つ課題を見つけました。

100年後を見据えた神戸市の「六甲山森林整備戦略」に出会い、行政の取り組みや、六甲山に携わる多くのボランティア活動の存在を知り、情報を収集することでグループ学習も一歩ずつ前進することになりました。学習の中で生まれてくる疑問がまた新たな課題へと繋がっていきました。

世界自然遺産「白神山地」のブナ林は有名だが、六甲山にもブナ林があります。六甲山と摩耶山は観光地としてアクセスも便利につながっているのに、なぜ六甲山牧場と森林植物園は交通アクセスが途切れているのか？ 世界中で問題視されている地球温暖化で神戸市は六甲山の森林のCO2吸収量をどのように捉えているのだろうか？ などがその課題です。

子や孫に、それからまた先に、より良く六甲山を引き継ぐためには今を生きる私たちに責任があります。

それがグループ学習の結論です。



脱プラスチック社会

—現状を知り～私たちができること—

脱プラ G7(ジーセブン) 濱田 茂治

プラスチックは私たちの暮らしに不可欠なモノとなっています。反面、プラごみ問題が大きな社会問題になっている。私たちはプラごみ問題を深掘しプラを上手く使っていく社会へのアプローチ策を研究しました。私たちの暮らしに身近で、容積・重量が最も多い容器包装プラに着目し学習を進めました。

神戸市が活動展開中の「つめかえパックリサイクル」は、使用済み「パック」から新たな「つめかえパック」を作りだす理想的な水平リサイクルで、全国に先駆けたもので注目されています。私たちはカレッジ内でこの活動を展開してその手応えを感じることができました。

プラを取り巻く環境(SDGs、日本の法律)は、今後の社会システムを「使い捨て型社会」から使用済みプラを再資源化する「循環型社会」への転換を要求します。プラを上手く使って住み良い社会をつくることであります。プラごみを減らすためには、「3R+1R」*の推進は言うまでもなく、それらと一緒に取り組むべきことが「市民の意識醸成」です。プラごみ問題はプラそのものが原因でなく使うヒトのマナーに依存します。「ばい捨てをしない」、「ルールに則ったプラごみの排出」が当然です。私たちができることから始め「プラを上手く使う社会」に向けて第一歩を踏み出したいと思います。* (Reduce、Reuse、Recycle + Refuse)



「魅力ある神戸づくり」のための交通手段

ハイカラさん 兼井 孝政

私達は、①1980年前後の多くの観光客が訪れた華やかな神戸の復活のための交通手段としてヨーロッパの街を走るライトレイルの導入、②超高齢化社会に対応した交通システム、③SDGsに対応した交通システムを学習テーマとしました。

そして、フィールドワーク（①神戸の観光施設調査、②ライトレイル先進地の富山市調査、③神戸の観光バス調査、④神戸市・富山市役所訪問）とアンケート調査（シルバーカレッジ生環学生と流通科学大学観光学科1・2回生）により、結論を導きました。

メインテーマのライトレイルについては、経済的に導入困難という結果になりました。しかしながら、フィールドワークでの神戸市の竹中大工道具館等の観光施設、富山市のライトレイルと市街地のマッチング等の素晴らしさを満喫しました。また、アンケート調査で流通科学大学の学生（2/3が市外出身）が神戸市の魅力として「住み心地の良さ」と「神戸市民の温かさ」を回答されたことに感激しました。

発表会では、ハイカラをアピールするために、女性陣は明治時代のドレスで、男性陣はハイカラさんプリントのTシャツで頑張りました。



神戸近海の海はほんとうに豊かな海なのか？

シルバー27 漁業組合 福井 康夫

「神戸近海(瀬戸内海)の海は本当に豊かな海なのか？」をテーマとして、瀬戸内海的环境、漁場改善の取り組み、漁獲量や漁業就業者など漁業の現状、魚の流通、アンケート調査による魚食への意識、健康への有意性、魚食教育、神戸近海の状況、海の恵み(海産物)を消費者に届けるためのさまざまな取り組みを視察・調査・取材しました。

高度経済成長期にもたらされた産業排水や生活排水による海の汚染、赤潮の大量発生による養殖ハマチの大量死に見られるような「瀕死の海」から、1970年代には、排水基準を強化した法整備を行い、水質が改善されて「きれいな海」へと変化しました。

しかし、この水質改善の結果は、海水中の窒素・リンなど海の肥料といわれる栄養塩類の濃度低下によるプランクトン類の減少を発生させ、「きれいな海」は「痩せた海」となりました。「痩せた海から豊かな海への取り組み」は、始まったばかりです。漁業関係者(海の生活者)だけの取り組みではなく、私たちもさまざまな「海の問題・海への取り組み」に意識、関心を持ち続け、地元水産業を含めた漁業関係者(海の生活者)を支援する必要があります。



孫に省エネ住宅を提案

エコ節ズは今できる省エネ実践

ECOGs(エコ節ズ) 中田 勝三

地球温暖化は世界共通の喫緊の課題であり、国連が提唱する“今すぐ動こう気温上昇を止めるために、個人でできる10の行動”を参考に、学習したい項目を数回にわたり協議し絞り込みました。その結果、「省エネ住宅」「家庭での節電」のキーワードにまとめ、学習テーマとして表題のものを設定しました。

具体的な学習目標として、次のものを掲げました。

- ① 省エネ住宅に関する基礎知識の調査
- ② 住宅メーカーへのヒヤリングによる最新の省エネ住宅の動向調査
- ③ 家電製品の最新の省エネ仕様、節電要領に係る調査
- ④ 冷蔵庫に関するアンケート調査および、自宅冷蔵庫での消費電力実験

学習結果に基づき、以下のことを提案します。

- ① ZEH（ゼッチ）基準を満たす省エネ住宅は、創エネ設備も必要となり割高になりますが、行政支援制度を有効活用していただきたいです。（リフォーム時も支援制度あり）
- ② 家電製品は年式による消費電力の差がかなりありますので、最新型への早めの取り換えおよび、取扱説明書による無理のない節電をお奨めします。
- ③ 冷蔵庫使用に当たっては、消費電力の少ない野菜室の活用および、熱容量の小さい樹脂製容器での冷蔵保管を提案します。
- ④ 家庭での省エネに関しては、公的機関による無料の「うちエコ診断」制度がありますので、気軽に活用していただきたいです。



食品ロスの削減

どんぐり5 吉田 謙

私たちは「食品ロスの削減」をテーマに選びました。古くなって、また食べきれずに捨てられている食材がある一方でその日の食にも事欠く人々も存在しています。

その食品ロス削減の一助にと食べられるのに捨てられる野菜を美味しく食べる料理法、また季節を感じながら食べられる山野草なども採取、調理しメンバーでいただきました。

いずれも調理法を工夫すればおいしくまた独特の味や風味が感じられます。里山での山野草の採取ではそれぞれの季節を肌で感じました。幸いなことに神戸ではそのような場所が随所にあります。野草図鑑を頼りに探してみてもいいのでしょうか。

食べるだけでなく、神戸市の取り組み調査では「フードバンク」「手前どり」の普及、食べ残しの持ち帰りができるレストラン、食品スーパーの値下げとなる商品や時間の調査なども実施しました。

できたことはほんの僅かなことにすぎませんが、身近な「食品ロス削減」に寄与できる、ささやかながらの成果となったとメンバー一同自負しています。

どんぐりや雑草、いろいろ食べてみましたが全員異状なくますます健康で、早春からの新しい野草への挑戦を楽しみにしています。



外来生物の生物多様性に与える影響

OM2+K 大山 秀雄

神戸市は、豊富な緑、瀬戸内海、広大な田園風景など、多様な自然環境を有し、これ等を守る為に「生物多様性神戸プラン」を発表するとともに、市条例を策定し、これらを保全するための取り組みを進めています。その施策の中に、外来種等による生態系等への被害の防止の一つとして、植物について「緑化における配慮種(使用しない)29種」を定めています。しかし、神戸市環境局による講義や、カレッジでの活動で、その中のいくつかの樹木や草花が、道路沿い、山沿い、住宅地、公園内の緑地で多くみられること、特にトウネズミモチについては、我々の自宅やカレッジの周辺でもみられることに気づきました。そして、これらに対する神戸市の施策が「今後の緑化事業において使用しないように努める」などと“悠長”なもので良いのかとの疑問を抱き活動を始めました。我々は、神戸市環境局を訪問し条例制定の経緯を調

査するとともに、この中の植物種 7 種に絞って、しあわせの村の近隣地区を延べ16日間に亘って実地調査を行い“緑化における実態”を取り纏め、市の関係部局に報告するとともに外来種の剪定・伐採を求める要請書を提出しました。この活動でグループ全員が大きな達成感を得て、仲間の絆が深まりました。



「もったいない(食品ロス)」を科学する ～今のやり方でロスは削減できるのか～

食の探検隊 中原 伸二

飽食の日本、テレビを観ればグルメ番組の花盛りです。一方で国連が提唱するSDGsでは、食料不足対策がうたわれています。食料不足と同等に問題視されているのが食料廃棄です。中でも、本来食べられるにもかかわらず廃棄される食品（＝食品ロス）が多量にあるのは、食料自給率が38%の日本では、特に大きな問題です。

「もったいない」という意識や感情をベースに食品ロス削減に向けた取り組みが、各地各所で近年盛んに行われています。しかし、データを見る限り遅々としてその効果は上がっていません。「もったいない」という感情での施策は、SDGsに対する免罪符や対策行為の正当化に働きかける効果はあっても、ロス削減効果は大きくはありません。

「食べられる物を廃棄するのはもったいない」ので、廃棄せず有効に活用しようという施策ではなく、「ロスの発生自体の抑制」を目指したシステム創りや商慣習の変革、更にはエシカルという新概念の取り込みが重要であると考えました。

また学習の後半は、ロシアのウクライナ侵攻によって顕在化した食料安全保障問題等々が、食品ロス問題を飛び越えて飢餓対策にリアリティをもって考えが及ぶことになりました。

このテーマの学習を通じ、隊員各位と楽しく又、学びの多い9か月を共にできたことに、感謝感謝。



◇園芸専攻◇

2月3日カレッジホールにて園芸専攻 27 期のグループ学習発表会が行われました。

発表は4グループで、テーマは身近で重要な4種類の作物での研究栽培でした。トウモロコシ苗にお湯を掛けて病害虫に対する抵抗性を高め収量を増やす斬新なヒートショック栽培、ナスの茎を支柱に縛りつけて無肥料で良い収量を目指す垂直仕立て栽培、えぐみのないホウレンソウを生食したいとの思いから発想した窒素肥料分を控える栽培、そしてきめ細かな水分管理などにより日々生育を見守ったメロン栽培の記録を示していただきました。各グループとも自然を相手に多々苦労もあったカレッジ3年間の園芸活動のすばらしい成果発表でした。先輩方の生き生きとした研究姿勢と楽しみながらの栽培作業にグループのコミュニケーションの良さを感じました。私たち後輩にも今後の園芸学習の糧となる大変有益な発表会となりました。

(園芸 28 期 前川 俊文)

トウモロコシヒートショック栽培

1 班 トウモロコシグループ 大取 哲夫

ヒートショック栽培という方法はいろいろな野菜に適用できる方法です。トウモロコシの場合は、双葉の時期に50℃前後のお湯を掛け定植します。お湯を掛けることでヒートショックプロテインを生成させ、病害虫に対する抵抗性を高めます。その結果普通に栽培するより収穫量が増すといわれています。

す。

研究栽培は4月の初め種蒔きから始めました。5月順調に生育した苗に対して、40℃と50℃の2通りの湯掛けをし、何もしない苗を含めて3通りの研究対象を用意しました。トウモロコシは先に雄穂(ゆうすい)が咲き暫くしてから雌穂(しすい)が咲きます。人工授粉の後、虫害を防ぐために雄穂を切除しました。

7月に収穫し食味試験を行いました。どの方法で栽培しても糖度は平均で17を超え、食すると本当にスイートであることが実感できました。50℃の湯掛けをしたものの中に生育が目立って遅れるものがあり、普通に栽培したものより収穫量が上回るということは今回確認できませんでしたが、条件を変えれば違った結果になる可能性はあると理解しました。



ナス垂直仕立て栽培

1班 ナスグループ 大取 哲夫

ナスは通常3本の支柱を使って三方向に茎を誘導して育てます。垂直仕立て栽培は垂直に立てた1本の支柱に茎を括りつけて育てます。茎を垂直にすることで結果的に植物ホルモンが活性化し、施肥をしなくても通常の方法より多くの収穫量が見込めます。

トウモロコシとは違ってナスは4月に接木苗を購入してスタートしました。しばらくの間ポットで育て、5月に畑に定植しました。育て方の大きな違いは、通常栽培の畝には元肥を入れ、垂直栽培の畝には入れないということです。追肥も同様になりました。

7・8・9月に食味試験を行い味に関して差はないことを確認しました。9月半ばに最終の収穫を行い、最終的に64kg(通常仕立て37kg、垂直仕立て27kg)の収穫量を得ました。夏の暑い時期には収穫量は落ちましたが、整枝をした結果9月に向けて収穫量は向上しました。

垂直栽培は通常栽培に比べて70%の収穫量で、垂直栽培の指南書にあるような結果にはならなかったのですが、狭い場所で効率的に栽培ができるなどメリットもあることが実感できた研究でした。



えぐみの無いホウレンソウの栽培

2班 ホウレンソウグループ 中田 一

ホウレンソウにはシュウ酸が含まれていて、これがえぐみとの関係で論じられることが多い。このシュウ酸は、植物が窒素を吸収することで体内に作ります。窒素肥料を少なくすることで、えぐみの無いホウレンソウの収穫ができるか調査することになりました。

窒素の施肥量を「なし」、「標準」、「標準の3倍」とし、収穫したホウレンソウの食味官能試験によるえぐみの違いと、葉に含まれている窒素分(硝酸態)の測定をしました。なお、シュウ酸の測定は学園ではできません。ホウレンソウは、窒素肥料が水に溶けた硝酸態窒素を吸収し細胞内でシュウ酸を作ることから、測定可能な硝酸態窒素を測定しました。

えぐみの感じ方は、硝酸態窒素の含有が少ないものほど弱くなりました。しかし窒素分「なし」のホウレンソウはほとんど生長せず、あろうことか花芽がついてしまいました。植物の生長には、肥料の三要素の一つである窒素分が必要不可欠で、えぐみの無いことを優先して窒素肥料を控えれば生育しません。この二律背反する関係があることより、普通種のホウレンソウでは、硝酸態窒素の少ないものは栽培できないことが分かりました。



全員集合



生育不良のホウレンソウ

メロン栽培における収穫物への施肥量の影響調査

2班 メロングループ 兵頭 彰

プランター栽培によりデザート之王様であるメロンを収穫したく、適切な栽培管理により難易度の高いメロン栽培にグループ全員で挑戦することにしました。メロンは果菜類の中でも温度管理と水分管理が難しく、品質の良い果実を収穫するには外部気象の影響を緩和することが大事です。事前の検討で用土内の水分量把握、ビニールハウス内の温度対策行い、施肥量の違いによる収穫物への影響を調査する研究栽培を開始しました。ハウス内の温度はメロン生育の理想的な温度に保つことはできませんでしたが、きめ細かな水分管理と施肥管理によりメロンのツルも順調に生育し、雌花が咲き、人工交配する事ができました。農園で作業されている方々から暖かい声援を受け、交配した果実はピンポン玉ぐらいの大きさから、日を追うに従って網目模様が出てきたときは果物店で見る本当のメロンができていると感動

的でした。栽培途中では、うどん粉病が発生し、重曹を噴霧したり、ひどい葉は取除き収穫段階まで持ちこたえることができました。収穫後、グループ全員で採れたメロンを食味試験し、今までの生育を毎日見守ってきた甘いメロンに全員舌鼓を打ちました。3年間の集大成として報告書を書き上げることができました。



◇美術・工芸専攻◇

美術・工芸専攻27期のグループ学習発表会が2月15日に行われました。入学当初、コロナ禍で9月からの学習開始という半年遅れのスタートの中、大変多忙を極められたと思います。その中で「山中平之風」「釉beイト」「キラキラレディース」「ホッコーリーズ」「象嵌最高す！」のテーマ別5グループが真剣に取り組んできた成果を発表されました。

各チームのそれぞれの陶芸の難しさを経験されたうえでの力作揃い。縄文土器へ懐古の情と刻苦勉励、釉薬のもたらす美の探求、ガラスの特性による窯焼時の難しさ、光庭に癒しの空間を作ろうとする情熱、彩色象嵌の難しさなど、汗と努力と忍耐が迫ってくるほどの研究発表でした。

3年間の集大成である卒業制作展は2月28日から3月17日まで、ふれあいホールで展示されますので、皆さまぜひ27期生の意気込みを感じながらご覧ください。

(美工 28期 和田 早苗)

縄文装飾と融合させた焼き締め風陶器の制作

山中平之風 山田 律男

『山中平之風』のグループ名は、男3人（山田・中川・平田）の頭文字をとり、“風が吹くように軽やかに自由な発想で陶芸を楽しむ”をモットーに命名しました。

日本の「焼き物」のルーツである縄文時代の土器・土偶などの造形や文様の装飾方法を学び、さらに古墳時代から始まったと言われている薪窯(穴窯)による焼成から伝承され、現在の信楽、備前や丹波に見られる焼き締めの陶芸技法をグループの調査、研究対象としました。

最終目標は、日本の伝統文化である茶華道に関連する道具に再現させることにしました。（作品はふれあいホールの卒業制作展でご鑑賞ください）

それぞれ自由な発想と行動力のあるメンバーだったので、目標設定や活動内容もスムーズに決まり、また、おののが

調べたテーマに関する情報共有を図るなどチームワーク良く楽しんで学習を進めることができました。

グループ活動では、NHKの朝ドラ「スカーレット」の舞台となった信楽町への窯場めぐりのフィールドワーク、縄文人になった気分楽しんで文様道具の制作と文様の装飾練習、また十分な知識もなくぶっつけ本番の野焼き(炭焼き)陶芸では天日干しの後、素焼き抜きの焼成を試みたところ、器が瞬時に破裂するなどの失敗もありましたが、メンバーと火を囲



みりラックスした楽しい一時を過ごせました。

この1年間のグループ学習を通して、縄文文化や焼き物に関して興味が深まったので、卒業後には日本各地の縄文遺跡や焼き物を訪ねて窯場めぐりを計画しようと考えています。

「人生100年時代」といわれ、まだまだ先があるので人生を楽しむという視点を持ってKSCで学んだことを生かして創作活動を謳歌したいものです。

釉で美しい作品を作ろう

釉 be エイト 石川 春生

陶芸では、何か月もかけて作成し、釉掛けの数秒で満足できない作品を経験しています。釉で美しい作品を作りたいと思う仲間が8人集まった「釉 be エイト」で、グループ学習に取り組みました。

①「釉掛け時間見本」は、学校釉で、下釉(一重目)と上釉(二重目)の掛け時間1・2・3秒、二重掛けの掛け時間の1・2・3秒の組み合わせ9通りを一枚の見本で見える化しています。試行錯誤しながら100枚以上作成した苦労作の、「釉掛け時間見本」が、皆さまの参考になることを願っています。

②「二重掛けで表現した作品」は、白土・赤土を使い、「釉掛け時間見本」を参考にした具体的な作品で、釉を表現しています。

③「4色の共通作品」は、大皿・中皿・ボール・コップの共通作品を夏休みに連日練習をした電動ろくろで成形して、男女2人の赤・青・黄・モノトーンの4チームに分けて作成しました。四つの形が違う作品を同じデザインにして、釉掛けも苦労しましたが、各色に個性があり、並べるとグループ感のある作品となりました。

④「4色(赤・青・黄・モノトーン)の表現作品」は、いろいろな土と、購入した釉も使った4色の作品です。テストピースで何度も検討して、「釉で美しい作品を作る」を表現する作品にしています。

何度も失敗を重ねながら、学び・取組んだ日々、みんな



で頑張ればできる達成感、見る度に思い出す作品となりました。

ガラス装飾技法

キラキラレディース 小西 玉美

キラキラレディースとは食器は不要、作る技量も無い。でも綺麗なガラスと釉薬が融合した輝く作品を作りたいと集まり、相談はラインとランチ時にすませ、実践あるのみの主婦4人のメンバーです。

目標は「土・釉薬・ガラスの色・量によるガラスが変化した色見本を作る」、「各自ガラス装飾作品を作る」です。

100均でテストピースの型「でか丸氷」、他に水差し、小分け袋、ざる、ふるい、インテリアガラスを購入。身近な耳かき、お盆、空き箱、牛乳パックなどを活用して「土にまぜない」「窯を傷めない」「食器は不可」の約束事を守り、本焼き時には細心の注意を払いました。

15個の「でか丸氷型」を使つてのガラス変化を画文集に掲載、ガラス18色見本と白・赤土に釉薬4種とガラスで24の色変化の見本表を作成しました。

特にトルコ釉薬はガラス装飾にだけ使用でき、ガラスと融合した美しさは各自の個人作品に輝きをもたらしました。

グループ学習テーマをガラス装飾技法としたのは私たちが初めてで、慎重にかつ大胆に家族、友人、知人を巻き込んで、「失敗も学習だから」と自由に楽しくのびのびと学習できました。ありがとうございました。



『光庭』のビフォーアフター

ホッコリーズ 須田静子

「中庭をランプで飾ろう」と集まったのは、自由闊達な人生の達人・先を見通す段取り名人・パワフルな趣味人・インコをこよなく愛する堅人(かたじん)の4人でした。中庭の名は『光庭』。ぴったりのテーマと考えたものの「見るのは、昼間。ランプの灯りはわからない」と気づき、赤松先生のアドバイスで「光庭の空間デザインをしよう」にテーマを変更しました。

癒しの空間を目指し、シンボルとなるカレッジを模した建物・自然・動物等を考え作成していきました。陶芸は、初めてという4人でしたので、「ひずみのないタイルを作るにはどうしたらいいのか」「四角く大きなカレッジ建物を作るにはどうしたらいいのか」「どうしたら癒しの色作りができるか」等々課題が山積みでした。一つ解決できたかと思えば、新たに課題が生まれるという繰り返しの中、赤松先生、市野先生の丁寧な指導、サポーターの細やかな支援そして、事務局の加藤さんの温かい励ましで努力を重ねることができました。そうして、できあがったのが、『癒しの光庭』です。ビフォーアフターをどうぞご覧ください。

癒しの光庭



象嵌を楽しむ/彩色線象嵌

象嵌最高す！(Saikos) 井手 憲二

KSCで学業生活が始まり、初めて陶芸と出会い陶芸の面白さを覚えました。自作の陶芸作品に、釉薬とは違う鮮やかな彩色ができないものかと同じ思いのメンバーが集まり、市野

先生や象嵌作家の作品に魅せられ、彩色象嵌を目指すことになりました。象嵌で何ができるのから始まり、まずは線象嵌でテストピースを作り、顔料・練り込み粘土・胎土・線の幅・深さ・釉薬等の見極めと象嵌技法の修得に努め、次に個人作品の制作へと進めることとしました。

テストピースを踏まえて、各自が自由なデザインで2枚ずつのカレンダー画を作ることとしましたが、いざ始めてみるとたたら板粘土は反る、曲がる、割れるなどなどが発生、象嵌は思った線が描けない、表現ができないと最初は散々でした。失敗を重ねながらも皆次第に腕を上げていき、グループ作品として個性豊かな作品ができ上がりました。

続いて個人の象嵌作品制作へと進み、全員がさらにユニークな作品を数多く作ることができました。

また、失敗を重ねるごとに技術も上がり、次々発想も膨らみ、象嵌の奥深さを感じました。



◇音楽文化専攻◇

3月1日、カレッジホールで27期生卒業演奏会が行われました。

コロナ禍で多くの制約がある中、7月からそれぞれの課題に向けて練習に励み、グループごとにテーマを掲げたすばらしい演奏でした。「椿」をテーマにした和太鼓の演奏では厳しい寒さの中でも美しく花開く寒椿のような力強い姿を感じ、「愛と平和」をテーマにした打楽器の演奏では8ビートやサンバにアレンジした、陽気で軽快なリズム感溢れた曲調がすばらしく、そして、「いのちの歌」と「The Lord bless you and keep you」の合唱では、共に学んできた道のりを思い描きながらハーモニーを奏でているようで、感動しました。

(音文 28 期 霜出 志郎)

【和太鼓グループ】

チーム名 和太鼓 楽(らく)椿(ちん)

演奏曲 寒椿(かんづばき)

作曲 松村 公彦

指導 松村組 松村 公彦 先生、松村 初恵 先生、
鳥居 侑平 先生

班長 長嶺 和人、合田 良美

私たち音文27期和太鼓グループは、昨年4月全員が和太鼓の迫力ある響きに憧れて和太鼓を選択しました。もちろん、初心者ばかりの集まりでしたが、松村先生から、バチの持ち方、打ち方など、基礎から熱い指導を受け、夏頃には、力強い和太鼓の響きを奏でるようになりました。

7月に、卒業演奏曲「寒椿」をいただき、グループ名も演奏曲の「椿」と和太鼓を楽しもうということで、和太鼓「楽椿」としました。

厳しい寒さの中でも美しく花開く寒椿のように、15人が心をつなげて、励まし合いながら半年以上かけて、演奏曲の練習を積み重ね、毎日、カレッジホールには、和太鼓の音が響きわたりました。

色々な困難にも直面しましたが、卒業演奏会には、素晴らしい「寒椿」の花をカレッジホールいっぱいに咲かすことができました。

松村公彦先生、松村初恵先生、鳥居侑平先生、事務局の高山さん、本当にありがとうございました。

この団結したチーム楽椿での素晴らしい貴重な経験を次の人生のステージに繋げていければ幸いです。



【合唱グループ】

チーム名 エール 27

曲名 「The Lord bless you and keep you」
(Jhon Rutter 作)

「いのちの歌」(Miyabi 作詞、村松 崇継 作曲)

指導・指揮 齊田 好男 先生

ピアノ 前田 裕佳 先生

班長 濱野 眞己子、安井 智子

1年生では学習開始が約半年遅れたことと、感染のリスクが高いということで、ほとんど歌うことができませんでした。2年生になって歌う機会が増え、合唱の楽しさが分かってきました。「いのちの歌」はクラスで歌いたい歌の候補にあがっていた曲だったので、この歌が提案されたときは大変うれしく思いました。作詞者 Miyabi(実は竹内まりや)の「生かされていることへの感謝を歌で表現したかった」という思いを伝えようと練習を積み重ねました。

「The Lord bless you and keep you」は、コロナ感染、自然災害、ウクライナ侵攻など心が落ち着くことができない今にぴったりの、安らぎと平和を祈る歌です。大事な言葉を意識して歌うこと、語尾の子音をはっきりと発音することなど英語の歌の歌い方の指導をうけました。

授業で伴奏をしてくださっていた中村真実先生のご都合が悪くなりましたが、前田裕佳先生に引き継いでいただき、歌うことができました。応援してくださった皆さまに感謝しています。



【パーカッショングループ】

チーム名 “Love & Peace”

演奏曲 “A Lover’s Concerto”

“What a Wonderful World”

指導 山中 佑起子 先生、柏木 菜穂子 先生

リーダー 大津 和雄、平田 洋子

コロナ禍、ウクライナ侵攻と不安な世界情勢の中、今年度のテーマは「愛と平和」と先生から提案され、チーム名も“Love & Peace”と名付けました。

演奏曲は、永遠の愛を望む女性の気持ちをつづった“A Lover’s Concerto”と反戦の思いがこもった“What a Wonderful World”の2曲です。

世界中で愛されている2曲を、8ビートやサンバにアレンジして演奏します。

男性6人、女性6人、ほとんど触れたこともない鍵盤打楽器や、見たこともないリズム打楽器に戸惑いながらも、打楽器アンサンブルの魅力でホールを包み、平和への願いと音楽の楽しさを届けたいと、この1年練習を積み重ねてきました。

なかなかリズムがそろわず、四苦八苦した私たちを根気強く指導してくださった山中先生、柏木先生、応援してくださった事務局の高山さん、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



グローバルな仲間たち

国際 28 期 小山 博

国際・交流コース 28 期のメンバーは、28 期だということだけではなく、海外に関心がある、海外で従事した経験がある、海外旅行を今迄たくさん経験している、グループ学習で国際・交流コースならではのテーマを掲げ、フィールドワークで海外に行き、情報を集めたいというようなメンバーが多く在籍しています。

毎月1回あるホームルームでは、事務局からの連絡事項だけではなく時間が相当余るので、有志による発表をしています。お得情報、70歳からの生き方、弾丸ツアー・・・に始まり、発表の場が余りにも楽しく興味が湧くものも多く、各班から毎月一人、発表することになりました。海外での経験談、海外を含めてのボランティア活動、楽器演奏、日本沈没、中国発祥4文字熟語、国家から見える国際の成り立ち、感染症、台湾一人旅など皆さんが持っている豊富な経験、知識を生かした発表をされて、毎月のホームルームが充実した内容になりました。

このコロナ禍の中でも、クラス内でのコミュニケーションは他のクラスに比べて図れているのではないのでしょうか。クラブでの活動とは別に、ハイキングに行ったり、少人数での飲み会をしたり、校外学習の帰りに、班で食事会を計画して食事に行くと、なんと他の班も多数同じ場所に来ていたりして、それぞれコミュニケーションを図っているなと感じました。

この様なクラスですが、3年生になると、グループ学習が始まり、テーマ別のグループに分かれての行動が多くなり、クラス全体のコミュニケーションの場が減ると思いますが、卒業までにはマスク生活も解除されると思いますので、みんなの名前と顔をしっかりと覚えられよう楽しくやっていきたいと思えます。



国際交流・協力コースで学んで

国際 29 期 越智 勇人

昨年 4 月に国際交流・協力コースに入学してはや 1 年になろうとしています。海外旅行が好きでもっと海外の知識を高めたいと思い、当コースに入学しました。

入学してこれまでの授業で一番印象に残っているのが、「日本と世界の食料事情」でした。世界人口がまもなく 80 億人を突破する勢いのなか、世界の耕作面積は限界に達し、食料在庫は減少傾向にある。地球環境がいつまでも安定し、世界が平和であり続ければ食料問題は無縁かも知れない。しかし、現実にはロシアによるウクライナ侵攻で世界の平和バランスが崩れ、資源や食料の流通が止まり値上がりが続いて世界の人々が苦しんでいます。こうした実情のなか我が国は農業従事者の減少、高齢化、耕作面積の減少、食料自給率の低下などあるべき姿とかけ離れた現実であり今後の食料事情が心配でなりません。こうした内容を知る事で、世界との繋がり、平和の大切さ、食料の大切さを再認識しました。

一方クラス内では、より多くの仲間との交流が深められるよう班再編成を行った交流、海外在住や出張経験者から「海外から見た日本は」のテーマで発表してもらうなどを実施し、いまでは各班内での懇親会、忘・新年会などが活発に実施されて、楽しい仲間づくりができています。

これから 2 年間の学園生活が残っていますが仲間づくり、世界と日本の実情を知ること、これから自分のできることを、やるべきことをみつめ今後の糧にしたいと思っています。



校外学習にて

健福 27 期 風折 正美



私たち27期生の入学式は、コロナウイルス感染症対策のため実施されず、授業の開始は9月になり、波乱のスタートを余儀なくされました。シルバーカレッジ1年生、2年生ではオンライン授業の活用により登校回数が少なく、また登校から下校までマスクを着用していたため、クラス

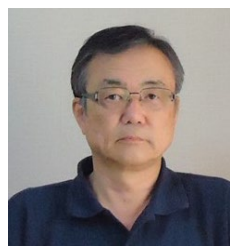
メートの名前と顔を覚えるのにずいぶん時間がかかりました。しかしカレッジでの授業、クラブ活動、学園祭などを通じてたくさんの人と出会い、充実した学園生活を楽しむことができました。

3年生でのグループ学習では、気の合う仲間と種々のフィールドワークを実施して、その結果をみんなで協力しながら一つの成果として仕上げていきました。それとともに他のグループの友達とも、「お互いに情報を交換しながら頑張ることも必要である」という、貴重な体験をすることができました。グループ学習を通じて、共同で作業することで、自分だけでは気づかなかった発見や発想ができることにも気づきました。

最近はこちら市民福祉振興協会のボランティアスタッフに登録して、しあわせの村で実施する各種イベントのボランティア活動に参加しています。

カレッジ在学中のこれらの経験を心に留めて、卒業後の生活に生かしていきたいと考えています。シルバーカレッジで貴重な経験と、楽しい思い出を作ることができたことを喜び、共に学んだクラスメート、先生方、事務局の皆さまに心から感謝申し上げます。

国際 27 期 井上 薫



私たちは、まもなく卒業です。正直なところ、もう3年が過ぎるのかとの思いです。

シルバーカレッジがたつ丘では、鳥の声がたえず聞こえ、手入れされた木々の緑、四季を通じて咲いている花、遠くに見える輝く海と山。このす

ばらしい環境の中で受ける学習がこんなに楽しいことであつたのかと、改めて思ったところでした。

私たちは、国際コースに入学しました。コロナ禍のため外国へ行きにくくなっていましたが、国際コースでは各国の知識が幅広く得られるよう講座が用意されていたことで、それぞれの講座に興味を持って、卒業までの3年間モチベーションを維持することができました。

1年生の時は9月入学^(注)で、同じ班以外の人顔も名前もなかなか分からないままに、あっという間に過ぎ、2年生になって、だんだんと周りの人が見えるようになってクラスまたクラブ活動の楽しさが実感できるようになると、これもあっという間に過ぎてしまいました。3年生になってからは、グループ学習が中心となり資料読みや報告書作成などで忙しくしている間に時は過ぎ去っていきました。

時が速く過ぎると感じたのは、歳のせいだけではないでしょう。ここシルバーカレッジで、それだけ充実した時を過ごさせてもらったからでしょう。また、新しい仲間ができて語り合う楽しさがあつたからでしょう。

今も、これからも、いつまでも、良い仲間であり続け、集い、語り続けましょう。仲間の皆さま、ありがとう。事務局の皆さま、ありがとうございました。

(注)編集者注：正確には4月入学、8月まで休校

生環 27 期 奥井 雅晴



思い起こせば3年前、漠然と「環境」について学ぶのだろうという軽い気持ちで「生活環境コース」に応募しました。しかし、一口に環境と言っても地球環境から身近なゴミ問題まで多様な面からのアプローチがあることを教えられました。例えば

地球温暖化やそれに伴う異常気象などの気候の変化、食料問題、またプラスチックごみによる海洋汚染や生態系への影響など、多様な講師による講義や校外学習、実習などを通して環境問題全般についての理解を深めることができました。その結果、日々の生活の中で「環境に優しく」を今まで以上に意識するようになりました。

私たち27期生は2020年9月の入学^(注)でカレッジ生活をスタートしました。1年生では学園祭が中止となり、クラブ活動も制約を受けるなど不自由な学園生活から、2年生になるにつれ徐々に普通の学園生活に戻り、3年生では主にグループ学習に集中することができました。グループ学習ではクラスメートとさまざまな意見交換や討議を行い、フィールドワークでの調査や昼食会、夜の懇親会などを通じて親交を深めることができ、そこで培われた人間関係は私の財産と言えます。

この3年間のコロナ禍のもとカレッジ事務局の皆さまにより、学生が学ぶ機会や学園生活を保障する努力がなされた結果、無事に私たちが卒業できますことに御礼を申し上げます。

美工 27 期 河合 信夫



ある時、会社の先輩から「退職すると手帳が空欄ばかりになるよ。その時に初めて退職したんだと実感するよ」と言われました。そうして、しばらくして打合せや会議でいっぱいになっていた私の手帳は空欄ばかりで埋めようにも何もない日々が続きました。

その先輩から「神戸シルバーカレッジという面白いところがあるよ」と言われたのを思い出しました。同年代の人達が活き活きと様々な趣味(学習)に取り組んでいる姿に「60代の最後はここでやってみるか。でも、コースがたくさんあるようだし、何をやるか？」と悩んだ末、ここ数年余裕ができて絵画の収集をしてきたので、自分で描いたらもう少しは感性も磨けるかもと、いらぬ期待を抱いて美工への入学を決めました。

さあ入学と思ったら1学期はコロナで休校、出鼻をくじかれたとはこのことをいうのですね。真新しい絵画セット(中学レベル)、初めての陶芸(粘土遊びレベル)、さまざまなアート体験など1年から2年の間はあっという間に過ぎていきました。

3年生はこれまでとは全く違う学園生活でした。卒業制作という大きな課題に1年間取り組むのです。5月から取り組んだのですが、意識が低かった私は11月になって初めて「まずい！遅れてる」と感じて、バタバタと制作にスパートをかけました。

ゆっくり水彩画でも描いて3年間を過ごすという最初のイメージとは違った最後の1年でした。しかしさまざまな人生を歩んだ決して会うことのなかったであろう仲間たちと過ごせた貴重な人生の1ページでした。

音文 27 期 平林 孝



シルバーカレッジの評判を知人から聞いたのが、定年して暫くたってからでした。

ネットで調べて、早速オープンカレッジで校舎や授業などを見学しました。多くのシニアの方々が生き生きと、若々しく活動している姿に

びっくりしました。家で毎日くすぶってはいけないと思い、学生の頃から音楽が好きだったので、音文に願書を出したところ幸運にも一発で入学することができました。

音文の授業では、プロの音楽家の歌や演奏を聴くこともあり、またマリンバや和太鼓の演奏の指導を受けることもあります。授業以外では交流会や学園祭などでクラス合唱を披露します。クラス合唱名「エール 27」で合唱した持ち歌は3年間で17曲、合唱の授業で歌った曲が18曲に上ります。こうして授業や合唱練習を通じてクラスの仲間意識が高まり、クラスメイトとの強い絆が生まれました。特に3年生になると卒業演奏会に向けての自主練習(和太鼓、パーカッション、合唱)のため、週の半分以上カレッジで練習しました。その結果うちのクラスでは、性別、年齢関係なくカレッジで顔を合わせればみんな笑顔になり、会話をすれば和気あいあいと盛り上がるそんな素晴らしい関係を築くことができました。他のコースの人から「音文は仲が良いね」とよく言われました。音文で過ごした沢山の思い出を持っていよいよ3月の卒業式を迎えます。

最後になりましたが、ご指導いただいた先生方、事務局の皆さま本当に世話になりありがとうございました。

園芸 27 期 北村 幸子



安心な食材を少しでも自分で作りたいという思いから家庭菜園をやってきましたが、基礎から学びたいと思い園芸コースを選択しました。

実習では、作物を育てる喜びや収穫の喜びを感じることはできましたが、

猛暑の中の水やり・雑草取り・記録などの農園作業は熱中症と日焼け対策に気を配りながらの厳しいものでした。それでも、同じグループの方々と共同作業でしたので負担を感じることなく、農作業の醍醐味を実感できました。

座学では、専門の先生の講義は面白く、栽培のポイントもよく理解できましたが、久しぶりの講義は睡魔との戦いでもあり、それなりに厳しいものでした。

日々の授業とは別に校外授業があり、リラックスして楽しく学べる機会でした。

・四季折々のしあわせの村日本庭園散策は、お話あり質問ありの楽しいひと時でした。

・森林公園での樹木医の先生の話は、お話しが面白く、分かり易かったことが印象に残っています。

・咲くやこの花館では、一般の方は入れないバックヤードに入り、植物の休眠冷蔵庫や環境管理されたハウスでのお話など授業では受けることのできない内容が印象に残りました。

コロナ禍で2年半に短縮されたカレッジ生活でしたが、それまでの日常生活とは変わり、忙しくも楽しい日々を送ることができ、充実したものになりました。

ご指導いただいた先生、事務局、サポーター、学友の皆さま、お世話になりました。

食文 27 期 大橋 洋子



我々27期はコロナ真っ只中、楽しみにしていた入学式もなく9月スタートで始まり、学校生活もあり分からないまま、日々が過ぎていきました。半年のロスは意外と影響があり、クラスが一体となることがなかなかありませんでした。そんな中、2年生の時はい

じめの学園祭でクッキーと雑貨の販売をすることになりました。みんなでワイワイと協力して作り上げ、クッキーは予約をお断りするほど大好評で完売することができました。このイベントのおかげでクラスが一つになり、半年のロスを打ち消してくれました。

食文の授業では、マスクにフェイスシールドで一流の先生から教えていただきながら料理を作り、でき上がった後はみんなで一緒にいただきます。幸いなことに食事をするときはマスクを外すので、みんなの顔を見ながら一緒にいただくことができます。これが一番楽しい時間です。3年生のグループ学習でも、みんなで悩み、楽しみ、遊びながら作り上げていく忘れられない素敵な時間となりました。

シルバーカレッジに入った目的の一つに新たな環境で友人と出会いたいということがありました。カレッジというだけあり、クラブ活動も多くあり、クラブに参加することによって多くの友達と出会うことができました。ここでいただいたご縁をこれからもずっと続けていけることを祈っています。

ご指導いただいた先生方、我々生徒を世話してくださった渡部さん他事務局の皆さま、お世話になりました。

KSC 太極拳クラブ 「みんなで楽しく身体も心も健康に！」

健康 29 期 西澤 匠嗣

今日は水曜日(金曜日も)午後2時45分～午後4時30分まで楽しみの時間です。指導員さんの「はじめましょうか」の声で、足首、膝、腰から首、腕、手首へと入念に身体を柔軟にします。

次に(老化予防や心の健康に効果のある)中国医療保健体操(連功)で、呼吸とともに伸ばしたり、曲げたり、拳げたり、全身の運動を行います。

クラブのモットー「みんなで、楽しく、和気あいあいと自分の体の状態に合わせ、無理せず、脚力、柔軟性、バランス感覚を養い、健康仲間を創ろう」通り、皆いい表情で気持ち良さそうに動いています。特に気候の良い時の屋外練習では、青空、緑、新鮮な空気を、いっぱい吸込み本当に気持ちがいいです。

休憩後は、24式太極拳の練習が始まります。先ほどとは違って、ゆったりと、流れるように、止まることなく足から腰へ身体の重心移動。難しい、速い、よれる、上がらない、指導員さんのゆったりとした動きについていけません。でも楽しい、うれしい気持ちになります。毎回、できてないところができると気持ちがよいです。丁寧に指導、演技していただいている指導員さんの温かいお人柄に感謝の気持ちがわいてきます。

一緒に、楽しく、健康に、皆さまのご参加を、心よりお待ちしておりますので、見学、お問い合わせ、よろしくお願いします。



絵手紙同好会 「ヘタでいい ヘタがいい」

健康 29 期 長井 信三

素朴でぬくもりあふれる「絵手紙」。絵手紙は基本ハガキサイズで描きやすく、用具を広げても省スペースです。思い立った時、さりと気軽に描けます。絵手紙の一番の楽しみは「手紙のやり取り」です。年賀状、暑中見舞いなど四季の便りやあいさつに、家族や友人とのやり取りに…。パソコンなどが主流となりSNSが席巻している昨今、手書きの絵手紙は個性があふれ、もって非常にうれしいものです。あなたの真心が届けられます。

私たちの合言葉は、「ヘタでいい、ヘタがいい」です。絵手紙には決まった描き方、形式はありません。皆さまは、「絵を描くのが苦手」、「絵心がない」、「難しそう」との心配が先に立ち、二の足を踏んでしまっ、次の一歩が踏み出せないのではありませんか。そんな心配は全く不要です。ヘタだからこそ、心を込めて描くことによってその人らしさが表れ、そして相手にその気持ちが伝わり、見る人の心を打つのです。



作品の題材は、あなたの身の周りのものすべてです。普段身近にあって何気なく使っているもの、見過ごしているものを、絵手紙にするつもりでよく見ると、新しい発見や小さな感動に出会えます。趣味や旅行などをテーマにするのも楽しいものです。

また、ハガキ以外にも、和紙(巻紙)、牛乳パック、コーヒーフィルターペーパー、うちわ、絵馬その他いろいろなものに描くことによって、また味わいが変わってきます。

当会では、毎月2回、第1・第3火曜日に例会を行っており、OB講師の指導のもと、少人数でアットホームな雰囲気の中作品制作に勤しんでいます。また、校内では学園祭、ジョイラックデー、常設展示場などで展示を行い、校外では兵庫区文化センターでの展示会なども行っています。

初心者大歓迎！気軽に体験もできます。皆さまの入会をお待ちしております。



KSC スポーツ吹矢グループ「忍者の武術を スポーツ化 ゲーム感覚で健康増進!!」

園芸 28 期 高野 晃久

吹矢というと、時代劇で忍者が使う姿を思い浮かべる人が多いかもしれません。実際に伊賀流忍者博物館では忍者の武器として紹介されていますが、その日本古来の吹矢を、腹式呼吸法を積極的に用いる健康法と融合して現代風にリニューアルし、競技性とゲーム性を持たせて発展したのがスポーツ吹矢です。

スポーツ吹矢は、1988年長岡市の医師が考案したのが始まりで、性別、年齢、体力による格差が少なく、中高年の人気スポーツとして競技人口も増加しています。直径24cmの得点別同心円の標的を、5～10mの距離から1.2mの筒で矢を吹き(1ラウンド5矢×2～6ラウンド)、その合計得点を判定します(距離とラウンド数は級位、段位により変化します)。

その効能は、腹式呼吸の積極的使用による体調改善や緊張緩和、肺の使用領域拡大による肺機能活性化、口輪筋・表情筋の強化による誤嚥の予防、標的を狙うスポーツ特有の精神力・集中力向上と命中の爽快感、級位・段位の認定による向上心とモチベーションの増進、同好の仲間との切磋琢磨と交流、など多岐に亘り、まさにシニアにうってつけです。

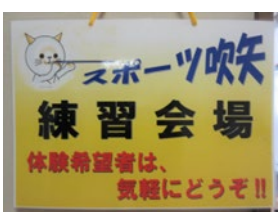
KSCスポーツ吹矢グループは、2012年10月に19期生が中心になって発足しました。2023年1月現在、総勢17人のメンバーで、月3～4回の例会(練習と昇級昇段チャレンジ)を放課後カレッジ内で実施しています。そのほかボランティア活動報告会やジョイラックデーでの吹矢体験会の開催、(グループわ 参加グループとして)しあわせの村「わいわいストリート」「ビバハロウィン」へのボランティア参加など、楽しく活動しています。スポーツ吹矢にご興味がわきましたら、お気軽にお声がけください。



例会での練習風景



標的と命中した矢(1ラウンド5本)



例会時に掲示していますのでお気軽に

英語点字グループ 「英語点字を学んで、はばたけ世界へ」

国際 28 期 片山 知栄子

点字は、6点で表記します。パソコンにソフトをインストールすれば点訳できます。

英語点字は、2種類あります。

1. 1級点字

「くまのプーさん」の1章を原文どおり英語入力します。パソコンには、点訳されて表示されます。点字の基礎・約束事の習得を目指します。

次にパソコン校正システムを使ってミスペル等をチェック。「ここは、パソコン教室か?」と大賑わいです。自己校正のあと相互校正します。

2. 2級点字

1・2月は、OB講師による2級講習会を開催。英単語の略語形を学びます。まずは点字板を使って1字1字打ちます。慣れないので手間取りますが回を重ねるごとに、これが点字なのだと実感しながら、しんどくても楽しいから不思議です。

英語点字は、地味な世界です。目立ちません。英語に慣れ親しめるライフワークになります。

今年は、OB会員(39人)による点訳製本、32冊(総67巻)を東南アジアの国々の視覚障がい者施設に寄贈しました。

コロナ禍で寄贈国への親睦訪問はかないませんでしたが、今年こそ「ネパールへ行こう!」を合言葉に頑張っています。



2022 年度「ジョイラックデイ」開催

事務局の企画で、1 月 11 日に「ジョイラックデイ」が開催されました。

「ジョイラックデイ」は阪神大震災での当カレッジ学生によるボランティア精神を伝え、日頃の活動成果を発表し交流する場として、毎年 1 月に開催されています。(P.20 Photo News 参照)

【カレッジホール】

ステージ出演は全部で 18 団体が参加しました。準備・片付けを含み 15 分の短い持ち時間での発表でしたが、日ごろの活動成果を充分に発揮され、和やかな雰囲気の中観覧席との一体感も醸し出され、楽しい時間が過ぎました。

出演団体は次の通りです。

午前の部【KSC フォークソンググループ、オカリナ 28、KSC 謡曲クラブ 銀謡会、KSC ハーモニカ、ミュージ研、KSC 太極拳クラブ、KSC 軽音楽クラブ、混声合唱団コーロ KSC】

午後の部【KSC 人形劇「ゆめ」、KSC アンサンブル、KSC オールディーズクラブ、ザ・カスターネッツ、KSC 三曲会、KSC オカリナチーム、KSC フルーツクラブ・フルーツパフェ、KSC アロハワイアンズ、アディオス・Amigos、国際交流友の会】



最後の国際交流友の会は PHD 協会*の研修生セティア ブディマン さん(男性 27 歳、インドネシア出身、畜産・農業研修)とアシカ チャルマカール さん(女性 24 歳、ネパール出身、障がい者福祉・保健衛生・女性の人権研修)が、母国での状況、研修、将来やりたい事を映像と覚えたての日本語で語られました。国際交流友の会はお二人と交流し日本語学習のお手伝いをしました。

*公益財団法人 PHD 協会

PHD 運動とは、1962 年よりネパール、アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による交際社会福祉運動です。平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981 年今井鎮雄理事長(神戸市シルバーカレッジ初代学長)が PHD 協会を設立しました。



【1 階ふれあいホール】

ふれあいホールには、14 グループの展示、出店、実演がありました。

【生活環境コース、陶芸ボランティアグループ、絵画ボランティアグループ、川柳くらぶ、KSC 書道部、絵手紙同好会、KSC 野鳥と自然観察会、KSC イベントぴかぴか隊、フランス語同好会、救急ボランティアしあわせ、ケナフの会、ボランティアグループ「こども文化」、国際交流友の会、ボランティア木工グループ】



【2 階学習室・和室】

2 階学習室、和室では実演や体験コーナーが催されました。【KSC マジック同好会、楽遊グループ(銭太鼓)、KSC スポーツ吹矢、KSC 茶道部】



(生環 28 期 佐野、関)

グループわ だより

第8回ユニバーサルカレッジ 1月14日

クラブ活動最後となる4回目「和の世界」はお琴でした。

三曲会（KSC）の皆さんのご協力で学生さんがお琴の手ほどきを受けました。

短時間で見事に一曲演奏できるようになりました。優しいお琴の音色に癒された時間でした。学生さんたちもとても楽しかったようです。



グループわ 新入会員受付

1月16日から3月24日までふれあいホールとグループわ 本部で受け付けています。在学中でも入会可能です。



枝吉小学校で「とんど祭り」 1月16日

グループわの学校支援として、同校のオープンスクール、書き初め展の受付を担当しました。同校では当日無病息災を祈る「とんど祭り」のイベントもありました。地域により「どんと焼き」や「左義長」などとも言われます。各クラスの代表の生徒さんが地域や保護者の方にお礼と新年の誓いを述べ、近所の保育園児たちも見守る中、「1.17 希望の灯」からいただいた分灯で点火。勢いよくお正月の飾りや書き初めなどが燃え上がりました。神戸の小学校で大切に守り続けているめずらしい行事に感動でした。



上野 直哉先生のジョイフルクッキング

姫路蓮根と海老のおやき

姫路市大津区勘兵衛町特産



《材料》 4人分

レンコン	300 g
冷凍むきえび	150 g
万能ねぎ	4 本
サニーレタス	4 枚

《調味料》

塩	少々
片栗粉	大さじ 2
サラダ油	大さじ 1
ポン酢	適宜
ねりからし	少々

《作り方》

1. レンコンの皮を剥き、酢水に10分ほどさらしてから、水分をよくふき取ってすりおろす。
(水分が多い場合は、ざるで少し水切りする)
2. むきえびの背ワタを出して、包丁で細かくたたく。
3. 万能ねぎは刻んでおく(刻みねぎはあまり細かくない方がよい)。
4. ボールに、すりおろしたレンコン、2のたたいたむきえび、ねぎを混ぜ合わせ、塩と片栗粉をよく混ぜ合わせる。
5. あまり厚くならないように、手で延ばして小判形に成形する(8枚くらい)。
6. 熱したフライパンに5のレンコン成形品を並べ、裏返しながら弱火で15分焼く。
7. ポン酢とねりからしを合わせ、からしポン酢を作る。
8. 皿にサニーレタスを敷いて、焼きあがったおやきを盛り付け、からしポン酢を添える。

(食文 28 期 矢野 みとり)

《俳句クラブ》

四季の俳句

硬券の鉄の音や春隣	谷口 裕
うたた寝の妻のほつれ毛日脚伸び	戸田 文章
病床の祖父にひとつの寒卵	佐野 貴代美
スキー場どこへ行っても英語圏	山田 浩子
マグカップ両手でつつむ冬の朝	寺尾 隆志
霊峰を浮かび上がらす冬花火	貞苅 茂
足元に風花溶ける山の寺	千足 恵美子
目も鼻も肌も喜ぶ柚子湯かな	村上 泰民
地蔵には赤いマカロン聖夜来る	中井 芳樹
いろいろ端父は十八番を歌い出す	大高 松男

《川柳くらぶ》

自由句

待てるかな リニア迄あと二十年	吉田 謙
巡回の映画童心揺さぶられ	吉田 謙
マスク取り陽だまり猫ににらまれる	名定 博
昼と朝老若替わるバスの中	名定 博
ロッキーのフックで夢も目も覚める	佐藤 眞巧
俺でなくプレゼント待つXmas	佐藤 眞巧
寒がりのうさぎ三枚パンツ履く	渡辺かおる
ニッポンの青うさぎ夢シュートする	渡辺かおる
凶吉と紙一枚に惑わされ	千足 千
一言が多い老婆の診療所	千足 千



《応募作品》

短歌

天日干しなぜかその日は雨おおし
 ままにはならず人生似たり
 二日後に痛み出てきたふしに
 そうだ授業で太極拳を
 初めてのクリアグラスにトライして
 クラスの皆個性満開
 寺尾 隆志（美工28期）

川柳

実印とマイナカードは貸金庫
 年度末予算消化の工事かな
 カレンダーまずに埋まるは通院日
 寺尾 隆志（美工28期）

俳句・川柳募集中！

投稿はこちらから



事務局だより

◆27期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます

27期生217人の皆さまが、3月24日(金)に卒業されます。合格早々新型コロナウイルス感染症の感染拡大で入学式が中止となり、4月から8月まで休校、その後7か月で1年生のカリキュラムをこなすという貴重な経験をされました。感染対策を励行しながらの授業やオンライン授業などを身をもって体験されました。しかし、そのような環境の中にあっても勉学やボランティア活動、クラブ活動などで、充実した日々を過ごされたと思います。

今後は、健康に留意され、当カレッジのモットーである「再び学んで他のために」を实践されますことを祈念しております。

◆卒業記念品ありがとうございます

3年生の皆さまによる卒業記念品として、3連タイプフォールディングパネルを寄贈いただきました。各種イベントやグループ学習などで活用されると思います。ありがとうございます。

図書室だより

立春(2月4日)が過ぎ、春到来が待ち遠しい季節です。3年生は卒業を控え、うれしいような寂しいような複雑な思いで過ごされていることと思います。同時に1・2年生は1つ上の学年になる楽しみを心待ちにされているのではないのでしょうか？

さて、図書室は3月27日に年に一度の棚卸し作業を行います。棚卸し終了後はすっきりと整理された図書室にみえていることと思います。また、読んでみたい本が図書室にない場合、文庫本を除き、購入申請できますので、図書カウンター横の申請用紙により、申込みをお願いします。

図書室は3月13日(月)から4月11日(火)までは閉館となります。閉館期間中は、返却する貸出書籍を事務局でお預かりします。

編集後記 2022年度の最終号はジョイラックデイ、そして1月号に引き続き27期生の3年間の集大成であるグループ学習発表会を紹介させていただきました。入学時にはコロナ禍で5か月休校を余儀なくされた学年とは思えないエネルギー感の発表の様子を感じ取っていただけましたか？

この1年を振り返ってみれば、世界では泥沼化するウクライナ戦争、米中の対立、トルコシリア地震と心痛むことがつぎつぎと起こっています。そんな中コロナ対策のためのマスク着用が続いてきたとはいえ、カレッジでは様々なイベントを実施

◆感染症感染対策へのご協力をお願い

皆さまには、カレッジ内外における感染対策にご協力をいただいています。春は近いといえども、気温が低く、乾燥した時期は、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザなどの感染症が流行しやすい時期です。体調管理、三密の回避(特に食事の時)、手洗いの励行、マスクの着用(特に飲食中の会話の時もマスクをする)、黙食など感染防止対策の励行により、安全で安心な学園生活を送ることができるようご協力をお願いいたします。

◆駐車場定期券の取り忘れにご注意を

多くの方に駐車場定期券をご使用いただいておりますが、料金所で定期券を機械に挿入したあと、引き取るのを忘れたまま通過してしまうケースが、いまだに発生しています。

ご利用に当たっては、定期券の取り忘れに十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

<新着図書>

『50歳からの「脳のトリセツ」 定年後が楽しくなる！ 老いない習慣』

著者 和田 秀樹 出版社 PHP 研究所

十進分類法による内容表記 (498) … 予防医学

『読んで、旅する。旅だから出逢えた言葉Ⅲ』

著者 伊集院 静 出版社 小学館

十進分類法による内容表記 (915) … 紀行

『ドローダウン 地球温暖化を逆転させる100の方法』

著者 P. ホーケン 出版社 山と溪谷社

十進分類法による内容表記 (451) … 気象学

することができました。こういった当たり前の日常を送れるようになった皆さまの様子を紙面で伝えることができたことは何よりも喜ばしいことでした。

この場をお借りして、これまで寄稿、取材にご協力くださいました皆さまに、そして「爽風」をいつも熱心に読んでくださった皆さまに、感謝いたします。次の4月特別号からは新2年生の29期生を中心に編集活動が行われます。引き続き「爽風」への応援とご協力をよろしくお願いいたします。

情報誌編集委員会

1月11日（水） ジョイラックデー



グループ学習発表会（生環・園芸・美工・音文）

生 環

園 芸



美 工



音 文

